

	発言要旨	市のコメント	担当課
1	男女共同参画に対する考え方 市長の考えをお聞きたい。	男女の違いは認識しながらも、差別はあっていけない。市職員の人材登用に関しても、同じ能力の場合は男性であれ女性であれ同じように採用すべきという考え。女性の場合は出産・子育てでハンディはあるが、その部分で差別はしない。 男女共同参画に対する考え方は3つあると思うが、 ①自然にやっているからそのまま ②女性にある程度優遇して、今までの差別を解消する ③積極的な行動計画を作るのではなく、男女を同じように扱うこと→③の考え方をとる。少なくとも市役所の人事に関しては、能力のある人は能力のある場につけてもらう、今後もっと若い職員が責任ある仕事をしたいということであればやっていただくということは意識として徹底していく。	地域づくり課
2	市の組織名に「男女共同参画」が入らないことについて 市の考え方が課名に少なからず影響しているのではないかと懸念する。	組織名に入っていないが、地域づくりに包括されており、市民協働係で担当している。多くのスタッフで複数の課題を解決するためには、ある程度大きな括りの組織が必要と考え、今年度の組織再編をした。（総合政策部長）	地域づくり課
3	意識改革について ベースになるものに母親が子どもをみるべき、家事は女性がやるものという考えがある場合は、職場の中で（男女共同参画の）素地が出来ていなければ、女性は働きたくても時間的制約などを考えて手を挙げられないのではないか。日常的に男女共同参画の浸透が必要。 男女共同参画は本当に推進されているのか、まだまだと感じる。 障がい者を支援する側の人でも、まだまだ男女共同参画の認識が低い人が多い。意識啓発は非常に大切と感じる。 制度改革と意識改革は同時に進めるべきで、意識面は自分たちも何かできていると考えている。 意識改革の面での市民への働きかけは市でも十分可能ではないか。	基本的には市の政策としてというよりも、市民運動などが起こった時に市がどのようにサポートできるかだと思う。 市がどのような考え方か →男女共同参画推進計画に基づいて事業を進めている。男でも女でも市民として協働して進めていくという社会の方向性に市としても全面的に対応していく考え方である。（総合政策部長） 国では内閣府の所管であることが、すべての施策に必要な考え方であることを裏付けている。 市でも、例えば審議会などに性別・年齢にかかわらず誰でも参加しやすい環境（例えば保育サポートなど）を整えるのが市の役割。 それと、もし差別という意識があるのであれば無くしていくという意識の啓発をすること。市役所内でも職員研修などしている。 意識改革と施策・事業のどちらかだけでは足りないと思う。 今後、計画の見直しもあるので、皆さんの意見もお聞きたい。（地域づくり課長）	地域づくり課
4	制度改革について 保育の現場から見ると、（自分自身が）男女共同参画を学んだことで、子育ては母親だけのことでないと認識し、（保育園で）父親にもアドバイスするようになった。意識を高めるのを助けるのが市の仕組みであると思うので、一時的にも下駄を履かせる（女性を優遇する）施策も必要ではないか。 北欧では積極的な推進策という意味で、父親が60日間育児休暇を取らなければ、その後母親の育児休暇が減られるような制度として縛りをかけたことで飛躍的に男性の育児休暇取得率が上がったということ。 市でも、（役職などで）男女平等になるため、目標に達するまで一時的に縛りをかけて推進するのも大事ではないかと考える。	①男性がかかわるようにもっと啓発すること、制度的に担保できることはないか ②同じ立場の場合に女性だけ優遇すること が考えられると思うが、②は同じ立場にある男性が差をつけられることになるのでやるべきではないと思う。 男性と女性をまったく平等に扱った場合、男女とも責任のある立場に立てるという考え方。 産休・育休の制度は基本的に国の制度で、市ができることは限られている。市として民間企業に言うのは困難。（市内の企業は経済的に厳しいところが多いところもある。） 国の制度として変わるのであれば、東京でも花巻でもどこの企業も同じなのでやりやすいが、花巻だけというのは厳しい。啓発はできると思うが。	地域づくり課

	発言要旨	市のコメント	担当課
	市内では、男性の子育て参加にまだ理解を示してくれない企業もある。何か方法はないものか。 同じ部署で働いていても、同じ能力があっても、女性の場合は育児や介護でハンディがあるのが現実。	市がやるのはなかなか難しい。国の労基署などがやるべき。花巻市だけが働きかけをしても企業は従わないのが現実だろう。いいことはもちろんやりたいが、市職員もどんどん減っていて少ない人員で精いっぱい仕事をしているので、事業所を一社一社回って働きかけるという余裕がない。 啓発活動は大事で、もちろん市でもやっていくが、どこまでやるか。国が中心になってやるべきだし、民間の人たちが運動していくのも大事。	
5	女性センターと相談機能について 女性団体活動交流スペース(まなび学園3階)を設けていただいたことは大変感謝している。男女共同参画に関して日常的に話題に上るようになったことは大きな一歩。 女性センターという建物を望むのではなく、機能面を花巻市としても取り組んでほしい。中でも相談機能の充実を望む。悩みを抱えていて話を聞いてほしい人、相談に行きたくても行けない人はたくさんいるので、それに応えていただきたい。 市民生活総合相談センターがあるとはいえ、本当に悩みを抱えた人が市役所に行くのは勇気がいるし、相談に行ったことが見えるのはいい形ではない。もりおか女性センターはいつ誰が相談室に入ったか周囲から分からないような仕組みになっている。 (本音は)「女性センター」という名前にこだわりたいが、その機能を備えたものであれば譲る。その機能は分散するより、相談・学習・情報発信など一か所にあったほうが非常に便利だと思う。 以前、警察跡地に建設する計画があったが、白紙になったのが非常に残念。	基本的には相談のワンストップということで、いかなる相談も市民生活総合相談センターで受け付けて、内容によって専門の相談員につないでいる。(総合政策部長) DVなどの相談は、家から出られないケースなどもあるので、必ずしも市役所の相談スペースで行っているのではなく、婦人相談員が相手との調整によって相談の場所を設定している。 場所も大事だが、県の相談機関や警察などとのネットワークも大事。(地域づくり課) 情報を伝える方法としては、ホームページや広報も使える。NPOなどの力を借りるのはいいと思う。 市としてできることはするので、担当課とも相談してどんどん活動してほしい。	地域づくり課